

2013年

秋の課題作文優秀作品【小学部】

S・Yくん（上山小）

なぜ時間を守らなければならないか、それはこの世の中で生きているのは自分一人だけではないからです。

たとえば、電車の運転士が時間通りに電車を運転しなければ、その電車を利用する乗客は会社や学校に遅れるなどして、予定通りにいなくなってしまう。そうすると、それ以降の電車に関わるその全ての人に、まるで、ドミノ倒しのように次から次へと迷惑をかけてしまいます。

このように、ぼくたちは気づかないうちにたくさんの人とつながって生きています。

母はよく、「時間を守らない人は信用されない。」と僕に言っています。だから僕は、いつも宿題などをするときは計画を立てて取り組みます。時にはうまくいかないときもありますが、優先順位を決めてやるように努力しています。

電車の運転士も、いつも時間を守らなければ、上司からも運転を任せられなくなり、電車会社も乗客から信用され無くなってしまう。

つまり僕たちは、たくさんの人とつながって生きていて、信頼関係を築いているのです。時間を守るということは、相手を信頼し、相手からも信頼されるための最低限のルールだと僕は思います。

F・Kさん（中川小）

「社会の中で生きていく点を考えれば、ほかの人たちと時間を共有しているという感覚が必要だ。」この一文を読んで、自分一人の為に動ける時間はとても限られていると思いました。人間は、一日のほとんどの時間を人と関わりながら生きています。そのため、「時間を守る」とは、「人間関係を守る」ことだと私は思いました。

私には、待ち合わせの時間に遅れてけんかに発展し、人間関係がくずれてしまったという経験があります。友達が約束の時間になっても現れず「早く来ないかなあ。」という焦燥感の一方で、「約束したのに。」という悲しい気持ちもありました。後日、友達に「行けなくてごめんね。」と謝られましたが、失われた時間と信頼は元には戻りません。時間を守らないということは、その後の信頼関係、果ては人間関係にも大きく関わることです。

けれども逆に、時間を守ると信頼感だけでなく「自分が原因で人にその時間を無駄にさせてはいけない」という責任感も生まれます。私の学校では授業の始まりや終わりなどにチャイムが鳴りません。だから、一人一人が時間を意識し行動することができています。すると、時間ギリギリになってあわてることも、時間を過ぎて席に着いていないということも、ほとんどありません。そのため、みんな気持ちよく過ごせています。

つまり、時間を共有している人の気持ちを考え、一人一人がそれらのことを意識しながら過ごす、このことが「時間を守る」ことであり、「人間関係を守る」ことにつながると私は考えます。

秋の課題作文優秀作品【中学部】

H・Kさん（茅ヶ崎中）

私は「時間を守ることの大切さ」と一口に言ってもいろいろな大切さがあると思います。ですが、私が一番大切だと思うことは、ルールを守ることに繋がるということです。

そのことは、本文中にもあった「ほかの人たちと時間を『共有』している」ということに関係します。私たち人間は生きていく中でいくつかの集団に所属しています。一番小さいものは「家族」という集団です。その他「学校」や「会社」さらには「国民」まで、様々なものがあります。集団に一つも所属せず生きていくことは困難です。そして集団の中では様々なルールが決められます。また、正式に決まっていなくても、いくつかはあたりまえのこととしてルールが存在すると思います。そして「時間を守る」ということもこのルールに含まれているのではないのでしょうか。ルールを破った人には何らかの形で罰が与えられます。罰金などはそれが形に現れているものです。しかし一番大切で一番怖いのは「人の評価」だと私は思います。なぜなら評価は形に現れないからです。そしてルールを破った者には「悪い評価」がつきます。ルールを繰り返して破れば、その分だけ「悪い評価」が蓄積されていきます。そして「悪い評価」の量が皆の許容量を超えたとき、待っている罰は集団からの排除です。しかし、先程も述べましたが、集団に一つも所属せずに生きていくことは困難です。こうなってしまうは大変ですよ。そこで予防策として「ルールを守る」ということが挙げられます。ルールを守れば悪い評価がつくのを防げるし、上手くいけば「良い評価」がついてくることになります。そして、その頑張りが認められたとき、初めて人より良い仕事や活躍ができるのではないのでしょうか。このように、時間を守ることはルールを守ることと繋がりを、さらに生きることも繋がります。私は、これからは、ほかの人と「時間」のみならず「ルール」も共有しているということを意識し、生活に生かしていきたいです。

今、この瞬間も私たちは自身の時を刻んでいる。そして、失い続けている。

私は過ぎた時はもう、二度と取り戻せないということをつい最近の出来事から学んだ。

K・Nさん（田奈中）

私は剣道部に加入しているのだが、その剣道の大会が行われる朝、私はみんなの待ち合わせの時間に遅れてしまった。みんなは先に試合会場へと出発してしまっただが、私はどうせ間に合うだろうという軽い気持ちで焦らずにいた。しかし、私が試合会場に到着した時間は開会式直前で、すでにアップも終了してしまっていた。私はコーチの先生に「時間はお前だけのものじゃない。周りにどれだけ迷惑がかかっているのか分かってるのか。」とこっぴどく叱られてしまった。その時私は初めて時間を他人と共有していることに気付いた。時間に対する価値観を軽く考えていた自分に腹が立った。

その後、私は試合には出場させてもらえたものの、初の一回戦負けをしてしまった。団体戦は優勝できたものの、みんなの足を引っ張るミスを何度もしてしまった。しかし、個人戦に出場できなかった仲間が、私の団体戦でのミスを許し、激励してくれたのである。そんな優しいチームメイトに、もう二度と迷惑をかけたくないと思い、私はこの出来事以来、待ち合わせには五分前に着くようにしている。

一人一人の価値観は違うので、過去の私のように時間に対して軽い気持ちを抱いている人もいるかもしれない。しかし、過去の私の過ちが消えることが無いように時間を取り戻すことはできない。この世界はやり直すのに多大な努力を要する世界であり、時間とはかけがえのないものである。どうか忘れないでほしい。自分の時間に対する軽い気持ちで他人に迷惑が掛かってしまうことがあるということ。そして、時間を大切に使うてほしい。もうすでに未来は始まっているのだから。